

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577300308		
法人名	社会福祉法人平生町社会福祉協議会		
事業所名	ひらお・みんなの家		
所在地	山口県熊毛郡平生町大字平生村618-2		
自己評価作成日	平成28年10月26日	評価結果市町受理日	平成29年3月31日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年11月29日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者のお一人おひとりのペースを大切にその方に寄り添いケアを行っています。食事は月曜日～土曜日の昼食以外はリビング内の台所にて食事をお作りしています。ご利用者にも食事やおやつ作り等お出来になられることは、一緒にを行っています。畑で出来た野菜や頂いた野菜を使用した季節感大切にした食事をお作りするよう努めています。お花見ではお弁当と一緒に手作り桜の下で召し上がって頂きました。その他にもお一人おひとりのこれまでの生活歴を大切に色々な事を行って頂いています。(洗濯物干し、洗濯物たたみ、食器洗い、掃除、裁縫、生け花等)外出支援や年間行事も大切にしています。(散歩、買い物、ドライブ、外食、お花見、紅葉狩り、初詣等)夜間は夜勤者と宿直者の2人体制で緊急時の体制が整備されておりご利用者、ご家族、職員の安心感に繋がっています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

入居時のセンター方式のシートを活用されている他、日常のかかわりの中で利用者に常に寄り添われ、利用者の言葉や喜怒哀楽の表情などを介護記録に記録され思いや意向に努めておられ、利用者の状態の変化や思いや願いは、3ヶ月毎に見直しをされて介護計画に活かすように取り組んでおられます。職員は、利用者がどのように暮らしたいのか、何をされたいのかなどの思いを把握され、これまでの暮らしの中で親しんで来られたことを活かして、食事づくりや保存食づくり(かんぴょう、干し柿、干しワカメ、紫蘇ジュース、文旦の砂糖漬け)、野菜づくりや家事(洗濯物たたみ、ランチョンマットたたみ、アイロンかけ等)など、利用者一人ひとりのしたいことやできることを活かされて楽しみごとや活躍できる場面づくりをしておられ、張り合いや喜びのある毎日が過ごせるように笑顔で支援しておられます。職員は利用者の人格の尊重とプライバシーの確保が徹底されるよう、職員間で話し合われて、年1回チェックシートを提出しておられるなど、利用者を人生の先輩として敬い尊厳を傷つけない言葉づかいや対応に努めておられます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:24. 25. 26)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:10. 11. 20)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:19. 39)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2. 21)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:5)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38. 39)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている (参考項目:12. 13)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:50)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:31. 32)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:29)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内に掲示し共有、ミーティング時等、実践出来ているか話し合っている。	地域密着型サービスの意義をふまえた事業所独自の理念をつくり、事業所内に掲示している。ミーティング時やケースカンファレンス時に話し合って確認し、理念を共有して実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物や散歩、ドライブ、イベント等に出かけている。また毎年行われている十七夜祭りでは、家族と一緒に参加し交流を深められるよう支援している。その他にもボランティアの来訪等がある。	町の広報誌や職員から情報を得て、地域で開催しているアイムフェスタの菊花展の見学や買物等に参加したり、十七夜祭で家族と一緒に花火見物をして地域の人と交流をしている。ボランティア(フラダンス、紙芝居、詩吟、手品)の来訪時に併設施設(デイサービス)の利用者が来訪して、一緒に演芸を楽しんでいるなど交流している。散歩時や買物時に地域の人と挨拶を交わしたり、米の差し入れがあるなど、日常的に交流している。大学生の介護体験を受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	介護についての悩みを話し合える場を設けるように努めている。		
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価・外部評価の結果については回覧やミーティングにて理解し出来ることから改善している。	管理者は職員に評価の意義について説明し、前年度の外部評価結果を回覧して、ミーティング時に全員から意見を聞いた後、一人でまとめている。職員は自己評価をケアの振り返りと捉え、食事の工夫に取り組んでいる。他、前回の外部評価結果を受けて目標達成計画を立て、運営推進会議に家族の参加者が増え、応急手当や初期対応の定期的訓練を年4回実施するなど、具体的な改善に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催している。事業報告、ご利用者の様子、行事、日々の取り組み、火災訓練、防災訓練等話し合いが行われている。そこで出た意見はサービスに活かされるよう取り組んでいる。	会議は年6回開催し、利用者の状況や活動状況、職員の研修状況、ヒヤリハット、事故報告、外部評価調査結果状況、火災訓練、食中毒、感染症等について報告の後、話し合いをしている。メンバーが固定化しているため、目標達成計画に添ってメンバーの拡大に取組み、多数の家族の参加者を得ているが、地域からの新たなメンバーを得るまでには至っていない。参加した家族から「誰が面会に来たのかを知りたい」という意見があり、利用者個々の「面会専用ノート」をつくるなど、そこでの意見を運営に反映している。	・地域メンバーの拡大
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	相談しやすい連携体制が構築されており、サービスの質の向上に取り組んでいる。	町担当者とは、運営推進会議時や電話、直接出向くなどして、情報交換や運営上の疑義について相談して助言を得るなど、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、運営推進会議時や地域ケア会議時、直接出向くなどして、情報交換や運営についての助言を得るなど、連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを整備している。職員全員、抑制や拘束のないケアに取り組んでいる。玄関や居室とも日中は鍵をかけておらず、自由に出入りできる環境になっている。	職員は内部研修や外部研修で学び、身体拘束の内容や弊害について正しく理解している。玄関には鍵をかけないで外出したい利用者があれば一緒に出かけたり、散歩をして気分転換を図るなどの工夫をしているなど、拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについては、管理者や主任が気づいた時には指導し、職員間でもお互いに注意し合っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待のないケアに関心を持ち、細心の注意を払いながら防止に努めている。外部研修にも参加している。		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する知識を深めて行くように努めている。		
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし理解・納得をして頂いている。家族の不安や疑問点には、常に相談しやすい環境に努めている。		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	苦情相談窓口・担当者・外部機関を明示し苦情処置の手続きを明確に定めている。	苦情受付体制や相談窓口、第三者委員を明示し、処理手続きを定めて契約時に家族に説明している。家族からは、運営推進会議参加時や面会時、行事参加時、電話等で直接聞いている。年4回、家族宛に各利用者の写真入りの生活状況を知らせる通信を送付したり、家族の来訪時には職員から、利用者の暮らしの情報を提供して、意見や相談がしやすいよう取り組んでいる。意見や要望は連絡ノートやケース記録に記録して共有している。個別ケアに関するにはその都度対応している。運営に反映させざるまでの意見や要望は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のミーティングや年2回個人面談を実施している。また普段の業務の中でも、なるべく職員の意見や提案を聞く場を設け、その意見が反映出来るよう努めている。	管理者は月1回のミーティング時や年2回ある個人面接時に直接意見や要望を聞いている。他、日常の業務の中でも聞いている。個人面接では個人目標の達成状況やストレスチェック(民間業者に委託)の結果から職員ひとり一人の思いを聞いている。排泄ケアの工夫や高齢者向けの献立の提案、休憩時間の確保、利便性のよい駐車場の確保等の意見を運営に反映している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を導入している。評価結果を個人に伝え、各自が向上心を持って働けるような環境作りに努めている。		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人が行う新人研修や外部研修にも参加している。OJTを実施している。	外部研修は、職員に情報を伝え、希望や段階に応じて、勤務の一環として受講の機会を提供し、ケアマネ情報交換会や認知症リーダー研修会に参加している。受講後は、復命書を提出し、内部研修で伝達して職員間で共有している。法人研修は、研修委員会(グループホームからは管理者が出ている)が、年3回、計画を立てて外部講師や法人内職員を指導者として実施(リスクマネジメント、理念、介護技術)し、職員全員受講している。内部研修は年4回、職員が講師を務めて実施(法令遵守、身体拘束、虐待防止、救急救命法、食中道、感染症)している。新人職員は、1週間の法人研修終了の後、日々の介護の中で先輩職員から介護の知識や技術を学んでいる。	
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山口県宅老所・グループホーム連絡会に加入している。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に、ご本人やご家族のお気持ちを聞き、安心して生活出来るよう配慮している。また、入所前にショートステイも利用して頂きながら徐々に馴染んで頂けるように努めている。		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に、ご本人やご家族の意見を聞き、安心して生活出来るよう配慮している。また、事業所の見学やショートステイも利用して頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前に、ご本人やご家族と話し合いの場を設けている。ご家族の意向を聞き、その情報を職員間で共有し周知徹底するよう努めている。		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事作りや片付け、洗濯干し、洗濯たたみ、掃除、散歩、買い物、裁縫等、日々を共に暮らしながら喜怒哀楽を共有し、ご本人から学んだり支え合う関係を築いている。		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の意向を汲み取りながら、ご家族へその思いを伝えている。職員と一緒に課題にも取り組むようにしている。		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人の友人や親戚が訪ねて来られた場合には、その時間を大切にし関係が途切れないように支援に努めている。馴染みの美容院等に行かれている。その他にも外泊やドライブ等されている。	家族の面会、孫やひ孫、親戚の人、近所の人、友人、知人の来訪がある他、事業所からドライブで昔住んでいた家に出かけたり、電話や手紙による交流を支援している。家族の協力を得て馴染みの美容院の利用や馴染みの商店での買物、八幡宮参拝、寺参り、法事へ出席、仏様を拝みに帰宅、外泊、一時帰宅、お見舞いに出かける、庭の手入れに帰るなど、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。	
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者同士のトラブルがないよう上手に間に入り楽しい場所となるよう支援している。		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他機関との連携を深め、相談があれば窓口を紹介している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話や様子からも思いや意向を把握し、センター方式のシートを活用している。引き継ぎ、ミーティング、カンファレンス等で職員間で共有しながら本人本位に検討している。	入居時のセンター方式のシートを活用している他、日々の関わりのなかで利用者に寄り添い、利用者の発した言葉や喜怒哀楽の表情を介護記録に記録し、「私の姿と気持ちシート」「私の心と身体の全体的な関連シート」を3ヶ月ごとに見直して思いや意向の把握に努め、介護計画に活かしている。自宅の状況が気になる利用者の思いを把握し、自宅周辺への外出機会をつくるなどの支援を行っている。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や意向に沿うように介護計画を立てている。また、職員の対応を統一出来るように情報の共有に努めている。		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	お一人おひとりのケースに様子や心身状態等記述し、その情報を職員間で把握し共有している。		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成は、日々の気づき、身体の変化等についてミーティング、カンファレンスを行い、その意見を計画に反映させている。介護計画は3ヶ月に1回モニタリングを行い見直しをしている。状況が変わった時はその都度見直している。	計画作成担当者と利用者を担当している職員が中心になって月1回、ケアカンファレンスを行い、本人や家族の意向、かかりつけ医や看護師の意見を参考にして、職員全員で話し合い、介護計画を作成している。モニタリングを3ヶ月に1回実施し、介護計画を見直している他、利用者の状態や要望に変化があった場合にはその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別ケースに、各々のバイタル、体調の変化、食事量、排泄、水分量など細かく記述している。引き継ぎ、ミーティング、カンファレンスの時に情報の共有を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	新たに生じたケースに対してミーティングを行っている。なるべく柔軟な支援が出来るように努めている。		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事にはなるべく参加して頂くように努めている。社会との関わりを持って頂き、豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご利用者は、各々にかかりつけ医を持っており、事業所の協力医である内科医は週に1回、精神内科医は2週間に1回訪問診療を行い、健康観察や健康管理にあたっている。	本人、家族の希望する医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関は内科医は週に1回、精神内科医は2週間に1回の訪問診療がある。他のかかりつけ医と他科受診は家族の協力を得て受診支援をしている。受診結果は家族には電話や口頭で報告し、職員間はケース記録や連絡ノートで共有している。看護師と連携して健康管理を行い、夜間や緊急時にはかかりつけ医との協力体制が整っており、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	引き継ぎ時に、その日の状況や体調の変化・注意点等、全職員に伝え周知徹底に努めている。体調の変化・異常があれば早目にご家族へ連絡し、受診に繋げるように支援している。		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された時には、情報交換や相談に極力努めるようにしている。		
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医療連携体制を整えており、利用開始時に方針を説明している。かかりつけ医の意見や本人・家族の意向を尊重し、その都度話し合いを行い対処している。	重度化した場合に事業所でできる対応について契約時に家族に説明をしている。実際に重度化した場合は早い段階から家族、主治医、看護師と話し合い、方針を決めて共有して医療機関への入院や他施設への移設も含めて支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	各マニュアルが整備され、職員で共有している。ヒヤリハットや事故事例はミーティングや朝礼で話し合い、事故防止等を検討している。	発生時には事故報告書やヒヤリハット報告書に発生場所や状況、原因、予防策を記録し、管理者や主任が意見を加えたものを回覧した後、再度月1回のミーティングで話し合い、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。消防署の協力を得て、救急救命法やAEDの使用方法については2年に1回、職員全員が受講している。応急手当や初期対応の訓練は年4回実施しているが、全ての職員が実践力を身につけているとは言えない。	・全ての職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の継続
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回火災訓練を実施し法人内の協力体制は整っている。その他にも年に1回防災訓練を実施している。	消防署の協力を得て、年2回、昼夜の火災を想定した通報訓練、避難訓練、避難経路の確認、消火器の使い方を実施している他、年1回、地震を想定した防災訓練を実施している。訓練には利用者や近所の人、自治会長が参加し、地域の人には見守りを願っている。自治会長が連絡網に入っているが、地域との協力体制を築くまでには至っていない。	・地域との協力体制の構築
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	お客様を人生の先輩と敬い、丁寧な言葉遣いを心掛け、お客様の誇りやプライバシーを損ねるような声掛けはしないように配慮している。	職員は内部研修や外部研修で学び、利用者を人生の先輩として敬い、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。職員は法令遵守や倫理規定のチェックシートを基に年1回提出するなど、守秘義務や人格の尊重とプライバシーの確保を徹底している。	
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、その都度皆様がどのようにされたいか意向を伺い、自己決定が出来るよう支援している。		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	どのようにされたいか、自己決定を大切に、お一人おひとりの意向になるべく添うように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時、洋服選びは本人に任せている。化粧水で肌を整えられている。美容院を希望される時は、その旨をご家族へお伝えし、馴染みの場所で身だしなみやお洒落ができるよう支援している。			
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	朝食は起床時間に合わせて個別に対応している。食事は季節感を大切にしている。調理や片付け等、出来ることは職員と一緒にして頂いている。夕食は職員と一緒に食べている。	食事は朝食と夕食、日曜日の昼食を事業所で調理している。利用者と一緒に献立を立て、事業所の菜園で取れた旬の野菜や家族の差し入れの野菜、新鮮な食材の買物を利用して食べやすい形状の工夫をして提供している。朝食は利用者ひとり一人の起床時間に合わせて対応し、概ね6時から8時までの2時間で対応している。昼食は日曜日以外は法人からの配食を利用しており、利用者の好み等を伝え、献立に活かすように工夫している。利用者は、買物や野菜の下ごしらえ、牛蒡のさがき、味見、むすびをつくる、巻きずしを巻く、テーブルを拭く、食器を洗う、下膳などできることを職員と一緒にしている。保存食づくり(かんぴょう、梅干し、干し柿、紫蘇ジュース、文旦の砂糖漬け)は、利用者個々の力を活かしながら支援している。おやつづくり(おはぎ、ホットケーキ、柏餅)、弁当をつくって桜の木の下での戸外食、年4回の外食、ケーキの付く誕生日食、季節行事食(おせち料理、恵方巻、節句の寿司、年越しそば)など食事を楽しむことのできる支援を多くしている。		
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を毎食後、記述し、お一人おひとりの状態に配慮し、その情報を職員間で共有している。			
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、お一人おひとりの口腔状態に合った声掛けをし、口腔ケアの支援に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	お一人おひとりの排泄のリズムを把握できるよう努め、失敗されないように早目に声掛けをし、トイレでの排泄が出来るよう支援している。	排泄記録を活用してひとり一人の排泄パターンを把握し、習慣を活かして、プライバシーを配慮した言葉かけや誘導をして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	お一人おひとりの体調、便意のリズムを把握できるよう情報の共有に努めている。便秘時には、食物繊維の多い物を摂ったりして工夫している。		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は、お一人おひとりの意向を大切に、お一人ずつ入浴して頂いている。体調やその時の状況によっては、午後からの入浴の支援もしている。その他にも、シャワー浴、清拭、洗髪、足浴等にもその都度対応している。	入浴は毎日、10時から12時までの間可能で、希望すれば時間も変更できる。個浴とし、順番や湯加減、入浴剤の利用、季節の工夫としての柚子湯など、本人の希望に合わせて対応し、ゆったりとくつろいだ入浴となるように支援している。入浴したくない人には無理強いしないで、順番や言葉かけの工夫をして対応している。利用者の状態に合わせて清拭やシャワー浴、足浴など個々に応じた入浴の支援をしている。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	今までの生活習慣を大切に、午睡される方は休んで頂いている。就寝時間も今までの生活リズムを大切に、安心して気持ちよく眠れるような環境作りに努めている。		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋をファイルし、薬の目的や副作用について把握し職員間で共有している。必要な情報は主治医にフィードバックしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	今までの生活歴を把握し、今出来ることに着眼している。お一人おひとりに合わせた役割、楽しみを見つけだし、自信を取り戻せるよう努めている。	モップ掛けや箒で掃く、テーブル拭き、洗濯物を干す、洗濯物をたたむ、洗濯物を自室に収納、ランチョンマットのアイロンがけ、ランチョンマットたたみ、寝具カバーをはずす、草取り、花壇の水やり、生け花、花瓶の水替え、裁縫(雑巾づくり)、新聞広告でメモ紙づくり、新聞紙を利用した汚物包みやゴミ箱づくり、食材の買物、野菜の下ごしらえ、牛蒡のささがき、味見、むすびをつくる、巻きずしを巻く、テーブルを拭く、食器を洗う、下膳、保存食づくり(かんぴょう、梅干し、干し柿、紫蘇ジュース、文旦の砂糖漬け)、テレビやDVDの視聴、新聞、雑誌を読む、折り紙、ぬり絵、貼り絵、切り絵、歌を歌う、ラジオ体操、口腔体操、健康体操、風船バレー、ボーリング、かるた、トランプ、数字並べ、文字並べ、計算ドリル、漢字ドリル、地域の祭りや文化祭に出かけるなど、利用者の喜びや張り合いとなる楽しみごとや活躍できる場面を多くつくり支援している。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩、ドライブ、買い物、花火大会、紅葉狩り、外食、イベントへの参加等、外出支援に努めている。毎年開催される花火大会は、ご家族と一緒に鑑賞され交流の場となっている。	周辺の散歩やテラスでの日光浴、買物、季節の花見(桜、バラ、紫陽花、ひまわり、彼岸花、紅葉)、ドライブ(上関、自宅付近)、初詣、文化祭、花火大会、外食に出かける他、家族の協力を得て外出や外食、一時帰宅、外泊、庭の手入れ、見舞い、法事へ出席などひとり一人の希望に応じて出かけられるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設でお金を使うことはない為、ご家族が管理している。		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族から電話があれば、ご本人とお話して頂くこともある。手紙のやり取りは自由に書いて頂くよう支援している。贈り物が届くとお礼の電話を掛けて頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	陽当たりの良いリビングには、ソファが置かれ、お客様同士で団らんされている。天気の良い日にはテラスに移動し季節感を味わいながら、おやつを召し上がって頂くこともある。リビング、廊下、脱衣場等には床暖房が設置してある。	リビングは大きなガラス窓から自然光が差し込み明るく、広々としている。ガラス窓からは季節の景色が広がり、リビングと続くテラスは自由に出入りができて開放感がある。室内は対面キッチンに面して食卓や椅子、テレビの前の大きなソファなどがゆったりと配置してある。キッチンからはご飯の炊ける匂いや調理の音が聞こえ、テラスには保存食のかんぴょうが干してあり、家庭的な雰囲気がある。利用者はテラスに出てかんぴょうを混ぜたり、ソファに座って談笑するなど思い思いの場所でくつろいでいる。壁面には干支や季節飾り、写真を飾り、廊下の全てに手すりが設置してある。温度、湿度、換気に配慮して利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	その方の思いを大切にし、お一人おひとり自由に共有の空間や部屋等、行き来できるよう努めている。		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで使用されていた物を持参して頂きご本人が居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	テレビ、テレビ台、整理ダンス、衣装ケース、衣類、寝具類、置き時計、手鏡、化粧品等、使い慣れたものや好みのもを持ち込み、干支の置物やプリザードフラワー、写真、誕生日の色紙などを飾って本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	今出来ることに着眼し、なるべくその力を活かせるう自立した生活を支援している。洗濯物干し、洗濯物たたみ、部屋の掃除、皿洗い、裁縫等、職員と一緒にやっている。		

## 2. 目標達成計画

事業所名 ひらお・みんなの家

作成日：平成 29 年 3 月 29 日

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	全ての職員が実践力を身につける為の応急手当や初期対応の定期的訓練の継続。	定期的訓練の継続。	引き続き定期的に訓練を実施する。内容、開催方法等工夫し取り組む。	1
2	5	運営推進会議のメンバーが固定化している。	参加メンバーの工夫と拡大。	運営推進会議の内容を工夫し参加メンバーの拡大に取り組む。	1
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。